



野心のすすめ

校長 萩野 幹夫

9月に「ZOZOTOWN」を運営する前澤氏が、民間人として世界で初めてアメリカの宇宙開発企業と契約を結び、2023年、月に向けてロケットの打ち上げを行うことを発表しました。実現されれば、アポロ17号が月面に降り立って以来51年ぶりになるということです。

『少年よ 大志を抱け』というクラーク博士の言葉に象徴されるような「大志」を連想させる前澤氏の記事を読みました。しかし、インタビューを読み終え、「野心」という言葉の方が適切ではないかと考えました。

2018年の国民生活の世論調査によると18歳以上の若者に〈どのような仕事が理想的だと思えるか?〉と聞いたところ、「収入が安定している仕事」を挙げた者の割合が59.2%、「自分にとって楽しい仕事」を挙げた者の割合が57.8%と高いです。

大志を抱けという多くの保護者や教育者たちの言葉とは裏腹に、若い人たちの意識はますますごんごんとしたものになっているのではないのでしょうか。社長や官僚は、もはや憧れの対象とならず、企業や役所の管理職にさえつきながらいない人が増えていることを耳にしていたので、この結果は頷けます。

確かに、高望みしなくても自分らしく生きられれば、それはそれでいいと思います。しかし、現実の社会は自分に合った仕事や楽しい仕事ばかりでなく、むしろそうでない仕事の方が圧倒的に多いです。子どもたちが社会に出て、逆境や不運に見舞われても苦難を乗り越えられる原動力はなんなのでしょうか?ある人は、「いつか成功して見返してやりたい」、またある人は、「地位や名誉を手に入れたい」、そして、前澤氏のように「今まで誰も考えなかったことをやってみよう」等々。それらには「野心」とも言えるエネルギーを感じます。

今、経済成長著しい国々の若者はインターネットからいろいろな情報を知り、初めて世界に目が開き、野心に満ち溢れ、多くの若者たちが国を超えての移動をしています。

日・米・中・韓4か国の若者の意識調査『偉くなりたいか?』の問いには、日本人は10%を切りますが、米・中・韓国は、それぞれ30%以上です。この途上国の若者は、何パーセントになるのでしょうか。日本の若者の意識は、現代人の価値観・職業観の多様性だけでは片づけられない一面もあると思います。

私は、野心を持った若者が一人でも多く日本から輩出し、国内外で活躍することを願っています。将来の日本を担う子どもたちは、学力がトップレベルであるにもかかわらず、自己に対する肯定的な評価(自己肯定感)が低い状況にあるので、なおさら自分の可能性に積極的に挑戦し、充実した人生を歩もうとする子どもたちの背中を押したいと思います。

とかく「野心」と言うとネガティブなイメージを連想する方も少なからずいらっしゃると思いますが、「自分の可能性に積極的に挑戦し、充実した人生を歩む」ために『野心』をもつことはとても大切ではないかと考える今日この頃です。



主な学校行事予定

- 11/21(水) } 休校 (ミャンマーの祝日 ダザウモン満月)
- 11/22(木) } 休校 (ミャンマーの祝日 ダザウモン満月)
- 12/ 3(月)～ 4(火) 中学部期末テスト
- 12/ 4(火) 日本人墓地清掃 小学部 2、4、6 年生
- 12/11(火) 日本人墓地清掃 中学部 1、2、3 年生
- 12/11(火)～20(木) 個別面談
- 12/15(土) サッカー交流会
- 12/17(月) 休校 (サッカー交流会振替休日)



平和月間について

墓地清掃担当 松川 裕代

ヤンゴン日本人学校では、11月を平和学習月間としています。各学年の児童・生徒の実態に合わせ、平和について考える取り組みを行っています。これに先立って10月の学校朝会では、本年度広島市より派遣された沖本教諭が広島市の歴史の話をしました。原爆の話、原爆により被爆した被爆樹木の話子どもたちは聞いています。その樹木から作られた「パンフルート」という楽器の音色とともに平和について考える機会をもちました。

小学部では、図書室にある資料や国語科、社会科の関連教材・単元をとおして、考えを深める機会を設定しています。中学部では、さらにそこから視野を広げ、国際平和や民族紛争などについて理解を深めるようにしています。

また、取り組みの一つとして日本人墓地の清掃を行っています。今年度も12月4日(火)【G2,4,6】12月11日(火)【G7,8,9】の2日間にわたって実施します。両日とも、長きにわたり日本人墓地の管理・運営をして頂いています池谷修様に、日本人墓地の概要や設立の経緯などについてお話していただく予定です。

「平和」は、一人ひとりの理解と協力と努力なくして継続することはできません。かつてこの地で何があったのか、人々はどのような思いや願いを抱いて生きていたのか知ることは大切です。多くの方々が眠る場所として、祈りを込めて建立された日本人墓地を清掃する機会をもつことで、子供たちがミャンマーと日本の関わりについて理解を深めていくことを願っています。今までの、そしてこれからの国際平和について考え、行動へとつなげていけるよう期待しています。



サッカー交流会について

サッカー交流会担当 成澤 千晶

12月15日(土)、メアリーチャップマンスクール、フレンチスクール、インドネシアンスクールを招待し、本校グラウンド、アセンブリーホール、体育館でのサッカー交流会を予定しています。スポーツ(サッカー)をとおして「国際交流を図ること」、「互いに協力し合い励まし合う態度を育てること」、「ルールを尊重しスポーツを楽しむ態度を育てること」を目的としています。低学年・中学年・高学年女子・高学年男子・中学部女子・中学部男子の6グループ編成で、1試合を前半と後半に分ける形式を取り、全児童・生徒が参加するようにします。そして今年度は、特に「交流すること」を大切に考えています。校外学習、チルドレンズフェスティバル等で交流のある3校と今度はスポーツをとおして、さらに心の交流から生まれるそれぞれの宝を見つけて欲しいと思います。同世代の仲間と一緒に、汗を流しながら真剣に一つのボールを追うことで生まれる何か、試合の勝敗以上に大切なことや仲間と心をつなぐことの感動、この交流から子どもたち自身が得られる何かを大切にしたいと期待しています。